



さかなのみうら 物資プロジェクト 活動記録

- 1 活動理念
- 2 発足のきっかけ
- 3 これまでの活動
- 4 状況に合わせて配布方法も変えていきます
- 5 現在の南三陸町とさかなのみうら
- 6 ご支援頂きました物資の配布のご報告
- 7 さかなのみうらの活動が取り上げられました

活動理念

必要な物を、必要な分、必要な被災者へ。という理念のもと、全国の支援者様、ご寄附下

さる企業様の想いを代わりに伝えるべく、以下のようなお手紙を添えて活動を続けております。

南三陸町の皆様こんにちは
さかなのみうら物資プロジェクトです
これらの物資は「南三陸町の皆様の未来のために！」と
全国の方々が生活費を切り詰めお金を出して購入して下さる物です
また震災後1年以上が過ぎた今でも南三陸町の事を
忘れずに応援して下さる企業様のご厚意で寄せられた物資です
仕訳や配布にも今も多くのボランティアの方々や
物資を提供下さる企業様自らが全国各地から来て下さっております
もちろん皆様無償で頑張っております

皆様が元気に復興する姿を全国の方々が熱望しております
支援物資をもらうことを当たり前と思わず
ご厚意に対し「ありがとう」という感謝の気持ちで
南三陸町の復興をめざし共にふんばってまいりましょう
よろしくお願い申し上げます

"必要なモノを、
必要な分、
必要な被災者へ。"

発足のきっかけ

避難所には、指定避難所とそうでない避難所があります。
震災直後、指定避難所には行政等を通し、全国、世界中から支援物資が届きました。しかし、取りまとめなければならない役場が流出してしまった南三陸町では、行政がうまく機能していなかった事もあり、支援物資が平等に配布されていなかったり、2次避難所、3次避難所、孤立してしまった集落などには賞

"ふんばろう！
力をあわせて一歩ずつ
南三陸町"

味期限の切れた食品しか届かない事もありました。南三陸町で三代続く鮮魚店、「さかなのみうら」社長三浦保志氏は、自らも被災し、店舗も自宅も流されてしまいながらも、「このまま故郷をゴーストタウンにさせてたまるか！」

という強い信念のもと、炊き出し等を行うなどして支援活動をされていました。3月末、三浦氏は、被災した鮮魚店の瓦礫を片付けていたところ、当時物資マッチングを主としていた、ふんばろう東日本支援プロジェクト <http://fumbaro.org/>というボランティア団体の西條代表と出会いました。色の無くなった町に一際目立つ、「ふんばろう！力をあわせて一歩ずつ南三陸町」の文字。町を鼓舞するために鉄骨のみになった鮮魚店跡に掲げられたその文字に、西條代表は興味を示し話しかけて下さいました。西條代表が、ブログ、ツイッターを通し、活動を広めて下さった事で、全国からたくさんの支援物資が届くようになりました。三浦氏の他に被災された地元の方々が中心となって全国から寄せられる支援物資の配布活動を続けております。

これまでの活動

震災直後は、トラックから段ボールを下すと同時に無数の手が伸びてくるほど切迫した状況下での配布活動でした。

そのため、物資倉庫に届いた段ボールの中身の確認をする余裕もなく、届いた支援物資を次々とトラックに積み、配布する日々が続きました。

3か月が経ち6月になると、支援物資も少しずつまわり始め、ライフラインが復旧してくると、被災された方々の様子も変化してきたので、仕分けした支援物資は品目別にコンテナに分け、並べました。受け取る方々にも並んで頂き、個数を制限するなどし、寄せられた支援物資を、より多くの方に平等に配布することを心掛けました。

この頃から、配布活動を通し、被災された方々と交流する中で、皆様とも少しずつ笑顔で会話ができるようになってきました。



「さかなのみうら」店舗跡



状況にあわせ、配布方法も変えていきます

8 月末日～9 月初旬 町内全ての避難所が閉鎖、仮設住宅への移住が完了。

4 月 28 日、登米市横山の仮設住宅の完成を筆頭に、順次、町内外に仮設住宅が完成し、少しずつ避難所からの引っ越しが始まりました。それに合わせ、避難所と仮設住宅の両方に物資配布を行うようになります。最終的に町内 58 か所の仮設住宅や自宅に留まった方々、およそ 3000 世帯へと配布を行う事になります。

夏が終わると、寒くなり日没時間が早くなったのと、半年が経ち就労する方が増えたという理由から、これまでのようなフリーマーケット形式での配布活動が困難になります。支援物資を一世帯毎にパッキングし、一軒一軒へ直接のお届け、または自治会長さんのご協力を頂き、談話室を利用したの配布方法へ切り替え、現在も同様に続けております。



近況のお伺いも兼ねて、一軒一軒にお届けします

現在の南三陸町とさかなのみうら

本来は鮮魚店店主である三浦保志氏は、「自店を町で最初に再開させたい！」と決意しながらも、「誰かがやらなければ」と、半年に渡りさかなのみうら物資プロジェクトを率いてきました。しかし、鮮魚店再開に向け、三浦氏は支援活動から離れ、再オープンの準備に徹することとなり、9 月下旬、鮮魚店「さかなのみうら」の再オープンを果たしました。



"震災から半年
鮮魚店
「さかなのみうら」
再オープン"

三浦氏が離れてからは、三浦氏の想いを引き継いだメンバーで支援活動を続けております。

未曾有の大震災から間もなく 1 年が経とうとしています。現在南三陸町は信号機が設置されたり、仮設の商店街が完成したりと、少しずつではありますが、光と活気が戻ってきております。

しかし、58 箇所にも点在する仮設住宅に対し、仮設の商店街はたった 2 箇所しか無く、大型のスーパーへは片道 40 分もかかる不便な状況です。

また、未だ行政から明確な復興計画の発表は無く、沿岸部はひどい所で 70 センチ近くも沈下したため建築制限があり、新たに商店を出そうにも出すことが困難だったりと様々な理由から町を離れていく人が後を絶ちません。

そんな状況におかれても、地元に残り奮闘される方々の手助けになればと思っております。

ご支援頂きました物資の配布のご報告

企業様よりご支援頂いたご報告の手段として、ツイッターを利用しております。
ご報告の他、私たちのプロジェクトの活動の様子を発信しております。



フォローする @sakananomiura 911人のフォロワー

さかなのみうらの Twitter アカウントです。物資支援協力のお願いと活動内容の報告をしていきます。

Twitter ができない三浦保志氏の代わりに、さかなのみうらのスタッフが想いを発信していきます。フォロー・拡散よろしくお願いします。

さかなのみうらの活動が取り上げられました

- 2011/05/23OA 仙台放送 FNN スーパーニュース
<http://www.youtube.com/watch?v=MtUDaSuptT8>
- 2011/06/16 OA フジテレビ FNN スピーク
http://www.youtube.com/watch?v=YEti12BaQ_w
- 2011/06 OA NHK 仙台
<http://www.youtube.com/watch?v=LagYYGY55VU>
- さかなのみうら 復興へのジレンマ テレビ東京 週刊新書
<http://www.youtube.com/watch?v=ivm54KiMSmg>
- 河北新報ネット
<http://tohokutact.blog.fc2.com/blog-entry-12.html>
http://www.kahoku.co.jp/spe/spe_sys1070/20110501_01.htm
- チャリTV
http://www.youtube.com/watch?v=_S8aRAz1K1w&feature=youtu.be
<http://www.youtube.com/watch?v=0RTaQMjNZhk&NR=1>

さかなのみうら物資プロジェクト



活動拠点 986-0725
宮城県本吉郡南三陸町志津川沼田
150-40

問い合わせ 嶋津祐司
090-3923-2004